



現場から（最近のニュースから）

人間の限界



脳科学者の毛内拡・助教と物理学者の田口善弘・教授が対談している記事がありました。そこで、お二人が、「人間は本当に世界を正しく見ているのか」という問いについて語っています。

そこで言われているのは、学者たちは自分で観察して、観察した結果を解釈して理論を作っているのですが、それが世界の本当の姿をそのまま現しているのではないということです。なぜなら、観察にはどうしても技術的な制約があり、そして、その観察結果を解釈しているのは人間の脳なので、そこには当然、人間の考えが入っているからだということです。

たとえば、色について言われています。色は物理的に言うと、電磁波の波長の違いだということです。その波長の違いを人間の目は直接感じ取ることはできないそうです。人間の目は、光の波を見ているわけではなくて、光子のエネルギーによって反応するセンサーを使っているだけで、網膜のタンパク質に光子が入ってくると反応する、そういう仕組みだということです。センサー自体が波長を直接測っているのではないということです。そして、人間の場合そのセンサーが大きく分けて三種類あって、それぞれ異なる波長帯に反応するそうで、その三つの反応の組み合わせによって色を認識しているそうです。その三つのセンサーの刺激の組み合わせを再現すれば、人間の目には同じ色に見えるので、光の三原色だけでフルカラーを再現できるカラーテレビが作れるということです。つまり、三つの信号の混ざり具合で色を感じているだけだということです。

それゆえ、主観的には「世界の物体には色と形がある」と感じてしまっていますが、それは、観測の仕方の違いによってそう見えているだけとも言えるということです。それゆえ、現実をすべてそのまま扱うことはできないことを認めて、まず現実の中から、ある条件で情報を取り出して、その条件付きで世界を記述するという考え方が出てきているそうです。色の例で言うと、「人間は形と色を認識する」という前提の上で、物理の説明が組み立てられるということです。（3月15日 AERA DIGITAL <私たちは世界を見ていない？ 脳科学者と物理学者が語る「人間の認識の限界」>より）

結局、人間には限界があるので、その限界があると認めただけで、物理学でも脳科学であっても、その枠の中で説明できるように観察して理論づけているということでしょう。一般的に、自分が見たこと、聞いたことがすべてだと思う傾向があります。しかし、人間には限界があって、すべてその限界の中でのことだと、深く研究すればするほど出て来るということではないでしょうか。自分の世界がすべてだと思っているので、限界が来ます。どんなに人間が研究しても、私という枠からは出られません。限界を感じることは当然のことなのです。私という枠を超えて見ることはできるのでしょうか。まったく違う角度から新しく見る目が開かれる必要があります。それについて、あなたにお分かちしたいことがあるのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」